

S-1/シスプラチン：day8 療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール

通常「5週間」を一区切り（1コース）として治療します。

副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。

1コース					2コース				
1週目	2週目	3週目	4週目	5週目	1週目	2週目	3週目	4週目	5週目
S-1 を服薬			S-1 を休薬		S-1 を服薬			S-1 を休薬	

 **点滴**
 **点滴**
 繰り返します

点滴スケジュール

点滴時間 3日間

患者様の状態に応じて長くなることがあります。

1回目：8日目

	薬品名	点滴時間	薬効
	 アロキシバッグ +デキサート	30分	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。 アロキシ：セロトニン拮抗薬 デキサート：副腎皮質ホルモン（ステロイド） 過敏反応の予防にも用います。
	 生食 500ml	120分	シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。
	 生食 500ml+ 硫酸Mg 補正液	120分	
	 生食 500ml +シスプラチン	120分	細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります
同時投与	 ソリュージェンF 500ml	90分	シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。
	 マンニトール 300ml	120分	利尿剤 シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。
	 ソルデム 3A 500ml	90分	シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。
 ポタコール R 500ml	90分		

1回目：9日目、10日目



薬品名		点滴時間	薬効
	生食 100ml +デキサート	30分	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。 デキサート：副腎皮質ホルモン（ステロイド） 抗がん剤による過敏反応も予防します。
	ソリューゲンF 500ml	120分	シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。
	ソルデム 3A 500ml	120分	シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。
	ポタコールR 500ml	120分	シスプラチンによる腎機能障害予防目的の輸液です。

薬品名	薬効
 アプレピタ ント	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。 化学療法投与した3日間服用します。 125mg 8日目、化学療法投与60分から90分前に服用 80mg 9日目、10日目の午前中に服用

エスワン配合OD錠

20mg



25mg



エスワン配合OD錠	
オテラシルカルシウム	副作用を予防のために配合されている成分です。
ギメラシル	テガフルの抗腫瘍効果を高めます。
テガフル	細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります。

2. S-1（エスワン）を服用するときの注意点

- ① 身長体重から決められた用量を1日2回朝夕食後に服用します。
- ② 服薬期間と休薬期間を必ず守ってください。
- ③ 食後に服用することで最も効果が出ます。食欲がないときでも、何か食べてから服用するようにしてください。
- ④ 一緒に服用するといけな薬があります。他の薬を飲む場合は、必ず主治医または薬剤師にS-1を服用していることを伝え、確認してください。
- ⑤ 飲み忘れた時は、飲み忘れた分をとばして（服用せず）次の回から1回分のみを服用してください。絶対に2回分を一度に飲まないでください。
- ⑥ 服薬状況を記録し、飲み間違いのないように心がけてください。専用の服薬記録手帳がごさいます。

3. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」





副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
吐き気・嘔吐・食欲不振 投与直後から 7 日目頃 	<ul style="list-style-type: none"> 投与後すぐに起こる場合。 投与翌日から 1 週間ぐらいの間に起こる場合。 投与前から起こる場合。 食事のにおいなどで起こる場合。 これ以外でも変わったことがあった場合は報告してください。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
下痢 投与直後から 7 日目頃 	普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛や、下痢でトイレの回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。
便秘 投与直後から 7 日目頃	便を軟らかくする薬や腸の動きをよくする薬を使用します。 また症状に応じて、坐薬や浣腸を使用することがあります。
口内炎・歯肉炎 投与後 7 日から 14 日目頃 	口の中を清潔に保つように心がけてください。 刺激の強いものや極端に熱いものはなるべく避けてください。 痛みで歯磨きができない場合でも、うがいはしてください。 症状が出現時は、軟膏やうがい薬を使用します。
過敏症 投与当日 	発疹、発赤、咳、発熱、悪寒、呼吸苦、浮腫など 薬剤や食物などのアレルギーは必ず申し出てください。 少しでもおかしいと感じたときはすぐに申し出てください。 症状出現時は、抗アレルギー剤、ステロイド剤を使用します。 まれに投与後に症状が出現することがあります。
脱毛 投与後 14 日から 21 日目頃 	頭髮のみでなく全身の体毛にも及ぶ場合があります。 洗髪はやさしく行い、柔らかいブラシを使用してください。 髪を染める刺激で髪が抜けることがあるのではなるべく避けるようにしてください。 投与を中止することで毛髪は、約半年程度で生えそろういます。 生えてくる毛髪は、色や質が以前と異なることがあります。
疲労感・倦怠感・発熱 投与後 2 日から 3 日目頃	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 肝機能が影響して症状が出現する事があります。 発熱の症状に応じて解熱剤を使います。 
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
色素沈着	手足や爪を中心に全身の皮膚が黒くなったりします。直射日光を避けるようにしてください。症状は薬剤を中止で改善する報告があります。
眼障害 流涙、かゆみ、目やになど	症状に応じて抗菌剤等の点眼液を使用します。洗眼することで症状が軽減することがあります。
味覚異常	味を感じにくくなったり、服用前と味の好みが変わったり、何を食べても同じ味にしか感じなくなることがあります。
発疹	服用してから1~2週間して出現することがあります。抗アレルギー剤やステロイドの塗り薬を使います。
末梢神経障害	手足がしびれることがあります。使用が長期になるほど発現頻度は高くなります。
しゃっくり	しゃっくりが長時間続くことがあります。症状に応じて薬剤を使用します。

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>白血球・好中球減少</p> 	<p>感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に手洗い、うがいを行う。 ・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。 ・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。 <p>風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</p> 
<p>赤血球減少</p> 	<p>めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。 ・減少の程度では、輸血することがあります。
<p>血小板減少</p> 	<p>出血しやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください ・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください ・減少の程度に応じて輸血することがあります
<p>腎機能低下</p>	<p>尿の出が悪くなることや、むくみが現れることがあります。 腎障害の予防として、輸液と利尿剤を使用します。</p>
<p>肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます</p>	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会
099-254-1125